

32	島根県立邇摩高等学校	全日制	総合学科	26～28
----	------------	-----	------	-------

平成26年度 個々の能力・才能を伸ばす特別支援教育 研究開発実施報告書（要約）

1 研究開発課題

高等学校に在籍する障がいのある生徒の自立と社会参加を図るため、特別支援学校や発達障害者支援センター等と連携して、自立活動を取り入れた特別の教育課程の編成及び一斉授業の改善工夫に関する研究開発

2 研究の概要

対象となる障がいのある生徒については、クラスや部活動の仲間とのコミュニケーション等対人関係に困難を示すことから、自立活動の「人間関係の形成」に関する指導を中心に週2コマ（年間70単位時間）を設定する。特別支援学校の協力を得ながら、個別の指導計画および個別の教育支援計画を作成し、それらに基づく指導、評価方法等について研究する。また、一斉授業において、図や資料を提示するなどの視覚化や教材・教具の工夫、課題解決のための取組等を重視するなど、支援の在り方について研究する。

3 研究の目的と仮説等

（1）研究開始時の状況と研究の目的

平成21年4月に校地内に知的障がいのある生徒を対象とした高等部が出雲養護学校邇摩分教室として設置され、年間を通して生徒同士の交流及び共同学習や教員間の特別支援教育に関する合同研修を実施している。一方、本校の生徒の中にも、中学校時に通級指導教室を利用していたり、発達障がい等の診断を受けている旨の報告を保護者から受けたりするなど、特別な支援や継続した特別支援教育を必要とする生徒の数が年々増加する傾向にあり、その対応が急がれる状況であった。

これらの状況を改善するために、自立活動を取り入れた特別の教育課程の編成及び一斉授業の改善工夫に関する研究の開発を行うこととした。

（2）研究仮説

- ① 隣接する特別支援学校分教室の自立活動担当教員が訪問指導することにより、障がいのある生徒への自立活動の指導を通して、障がいのある生徒が「人間関係の形成」および「コミュニケーション」を中心としたスキルを身につけ、授業時間や休み時間、部活動等の学校生活において、より円滑な人間関係を築くために適した行動をとることができる。
- ② 教務部を中心として、学校全体でICT機器の活用による「『見える』学びを目指して」をテーマに、一斉授業の改善工夫を行うことで、障がいのある生徒にとっても、障がいのない生徒にとっても、分かりやすい授業を行うことができる。

(3) 教育課程の特例

研究開発1年次においては、教育課程の特例に向けた準備、一部試行的実施を行うこととした。対象となる1年生4名については、単位数として含めない授業時間外(課外)に以下のような指導を実施した。なお、2年生以降に自立活動(授業名「煌めく羅針盤」)を履修することとしている。

教育課程の特例の内容	指導内容	授業時間数・単位数等
「自立活動」の指導 ※ただし、1年生は授業時数、単位数として含めない	2・3年生の自立活動に向けての事前指導 ・障がいの認識や自己理解 ・感情やストレス対処のスキルを習得する	1年次：課外 ※実施時間数 (各生徒3回程度)
「自立活動」の指導 (授業名：煌めく羅針盤)	LSTの実施 ・自己や他者を理解する ・効果的なコミュニケーションのスキルを習得する	2年次：70時間 (2単位)
「自立活動」の指導 (授業名：煌めく羅針盤)	LSTの実施 ・卒業後の社会生活に必要な知識やスキルを習得する	3年次：70時間 (2単位)

※LST (Life Skill Training)

(4) 個々の能力・才能を伸ばす指導(現行指導要領における一斉指導の改善工夫等)

研究開発1年次においては、実施の前段階として指導の現状と生徒の実態把握を行い、ICT機器を活用した一斉授業の改善工夫に向けた基盤作りを行った。

- ① 一斉授業の改善についての生徒の実態把握アンケートを実施
- ② ICT機器を活用している先進校視察や研修会への参加
- ③ 校内でのICT機器の活用による一斉授業の改善工夫等の方向性の確認

(5) 研究成果の評価方法

- ① 行動分析調査
対象生徒の行動的特徴を授業および休憩時間、部活動等において、関係のある全ての教職員が入力できるシステムを利用する。
- ② アンケート調査
対象ある生徒およびその保護者が、学校生活や家庭生活において、研究仮説における評価をアンケート方式で行う。
- ③ 面談
担任が対象生徒およびその保護者に対して面談を行い、具体的な様子を聞き取ることによって評価し、今後の指導についての改善を図る。

④ 運営指導委員会での評価

行動分析調査とアンケート調査、面談の結果をまとめ、生徒一人一人の目標の達成度と学校全体としての達成度を運営指導委員会で評価する。

4 研究の経過等

(1) 教育課程の内容

別紙①のとおり

(2) 全課程の修了認定の要件

別紙①のとおり

(3) 研究の経過

	実施内容等		
	概要	前期	後期
第1年次 (26年度)	教育課程の特例に向けた準備、一部試行的実施	<ul style="list-style-type: none"> ○運営指導委員会の委員選出 ★運営指導委員会の開催（教育課程編成等） ★事業推進会議の開催（月1回） ●連絡協議会への参加 ●校内研修会の開催（事業の周知、一斉授業の在り方等） ★邇摩高校と出雲養護学校の協議 □生徒及び保護者への説明（1年生） （本事業・自立活動の実施について） 	<ul style="list-style-type: none"> ●研究協議会への参加 ★事業推進会議の開催（月1回） □一斉授業の改善工夫に向けた準備 ●自立活動担当教員の研修 ●先進校視察 □1年生対象生徒及びその保護者への説明 （自立活動の実施について） □放課後を利用した、自立活動試行的実施 ★運営指導委員会の開催 （一年次の課題と改善） ○一年次評価とまとめ（報告書作成） ○二年次計画作成
第2年次 (27年度)	教育課程の特例の適用、一斉授業の改善の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○自立活動担当教員の兼務発令 ★事業推進会議の開催（月1回） ●校内研修会の開催 （事業二年次の実施について） □対象生徒及び保護者への説明 □自立活動の実施及び一斉授業の改善工夫 □前期評価 ●自立活動担当教員等の研修 □生徒及び保護者への説明（1年生） （本事業・自立活動の実施について） 	<ul style="list-style-type: none"> ★運営指導委員会の開催（前期の振り返り） ★事業推進会議の開催（月1回） □自立活動の実施及び一斉授業の改善工夫 ●先進校視察 □1年生対象生徒及びその保護者への説明 （自立活動の実施について） □放課後を利用した、自立活動施行的実施 ★運営指導委員会の開催（二年次の課題と改善） ○後期評価 ○二年次評価と三年次計画の作成 ○二年次まとめと報告書作成

第3年次 (28年度)	2年目の実施結果を踏まえた改善実施	<input type="checkbox"/> 自立活動担当教員の兼務発令 <input checked="" type="checkbox"/> 事業推進会議の開催（月1回） <input checked="" type="checkbox"/> 校内研修会の開催 （事業三年次の実施について） <input type="checkbox"/> 対象生徒及び保護者への説明 <input type="checkbox"/> 自立活動の実施及び一斉授業の改善工夫 <input type="checkbox"/> 前期評価 <input checked="" type="checkbox"/> 自立活動担当教員等の研修 <input checked="" type="checkbox"/> 先進校視察	<input checked="" type="checkbox"/> 運営指導委員会の開催（前期の振り返り） <input checked="" type="checkbox"/> 事業推進会議の開催（月1回） <input type="checkbox"/> 自立活動の実施及び一斉授業の改善工夫 <input type="checkbox"/> 後期評価 <input checked="" type="checkbox"/> 運営指導委員会の開催 （三年次の成果及び課題のまとめ） <input type="checkbox"/> 本事業の成果とまとめ <input type="checkbox"/> 報告書作成と事業報告
----------------	-------------------	---	---

（4）評価に関する取組

評価計画		
第1年次 (26年度)	ア 教育課程の編成	・自立活動を取り入れた、教育課程を編成することができたか
	イ 生徒及び保護者への説明	・自立活動について、対象生徒および保護者に説明し、理解を得ることができたか
	ウ 自立活動の試行的実施	・自立活動を通常の授業に加えて試行的に実施し、成果及び課題を見出すことができたか
第2年次 (27年度)	ア 行動分調査	・対象生徒の行動について、関係のある教職員が記入し、分析することができたか（随時、学期末に分析）
	イ アンケート調査	・対象生徒および保護者に対して、研究仮説に基づくアンケートを実施することができたか（年度末に実施） ・教員に対して、一斉授業の改善工夫について取組むことができたか
	ウ 面談	・対象生徒及び保護者に対して面談を行い、成果及び課題を共有し、今後の指導について改善を図ることができたか（年度末に実施）
	エ 総合評価	・ア～ウについて関係者が総合的に評価し、成果及び課題を共有し、今後の指導について改善を図ることができたか（年度末に実施）
第3年次 (28年度)	ア 行動分析調査	・対象生徒の行動について、関係する教職員が記入し、分析することができたか（随時、学期末に分析）
	イ アンケート調査	・対象生徒及び保護者に対して、研究仮説に基づくアンケートを実施することができたか（年度末に実施） ・教員に対して、一斉授業の改善工夫について取組むことができたか
	ウ 面談	・対象生徒及び保護者に対して面談を行い、成果及び今後の学校生活、社会生活を送る上での課題を共有することができたか（年度末に実施）
	エ 総合評価	・ア～ウについて関係者が総合的に評価し、研究仮説を検証することができたか（年度末に実施） ・今後の高等学校における特別支援教育の在り方（体制整備等）について考えることができたか（年度末に実施）

5 研究開発の成果

(1) 実施による効果

① 生徒への効果

(ア) 自立活動の実施対象生徒

対象生徒に自立活動を各3回程度実施し、毎時間、振り返りのワークシート記入を行った。生徒4名の記入と自立活動担当教員の記録から、以下のような様子が見られた。

生徒A：自分の思いを素直に話すことができた。

「人との関係の中で自分がどのように動けばいいのか」を学びたいと考えている。

生徒B：高校生活に適応できているように見えたが、中学生まで聴覚障がい教育特別支援学校に在籍していたため、今までに経験のない集団生活の中での不安感を感じ、緊張していたことを伝えた。

生徒C：自分の課題とした「人との距離の取り方」についての困難さを感じており、そのことについて授業で取り組みたいと語った。

生徒D：言葉の表出は、少なかったが、この授業の目的を理解し、前向きな態度であった。

【生徒の感想から】

「楽しくて良かった。」

「話せない人とも少しずつ話せるようになって友達が増えた気がした。」

「自分が初めての人と話すことが苦手なんだと感じた。」

「たくさん話すことができてよかった。」

「物事にはいろいろな見方や考え方があることが分かった。」

「自分を見つめなおすことができた。」

「学校生活で感じていた緊張が少し和らいだ。」

「人との距離の取り方について考えることができた。」

- ・生徒たちは自立活動をたいへん前向きにとらえており、学習後には達成感を感じる内容の感想を述べている。
- ・自立活動担当教員からは、「周りをとらえる視野が広がった。」「次第にリラックスして活動できるようになった。」「挨拶をしっかりとるようになった」などという生徒の変化や実施の効果についての報告があった。

(イ) 対象以外の生徒

- ・これまでも、隣接する特別支援学校分教室の高等部生徒との交流及び共同学習を通して、特別支援教育への理解は進んでいた。本校が研究指定校になったことが新聞に掲載されたときに、邇摩高校での取組みが不登校や学校不適応を防ぐことにつながればよいという意見文を書いた生徒もおり、他の生徒たちの関心は高く、本事業への期待をもっているようである。

② 教員への効果

- ・自立活動の実施に向けての推進会議や校内研修、広報誌「煌めく羅針盤」等を通して、発達障がい、自立活動、通級による指導などについての基本的な知識を学ぶことができた。さらに、特別支援学校の教員に自立活動担当者として関わっていただいたことにより、自立活動の目標設定の仕方や具体的な指導内容など、高等学校の教員が全く知らなかったことについて、正確に理解することができた。
- ・学校全体で特別支援教育に対する意識が高まり、特別な支援が必要な生徒のために臨時で開催していたカウンセリング委員会を、来年度からは月に1回定期的に開催することになった。
- ・授業改善に関する生徒への意識調査により、生徒の実態を把握することができた。学習上の困難さを抱えている生徒への支援や満足感を得ている生徒への更なる向上に向けて、各教科会、教科主任会で指導上のルールを作成し、次年度から教職員と生徒の共通理解のもと授業改善に努める。
- ・ICT機器の活用による、一斉授業の改善の工夫に向けて基盤づくりを進め、実際に一部教科で活用を始めることができた。

③保護者等への効果

(保護者)

- ・自立活動対象生徒の保護者は、以前から生徒の学校生活や家庭での様子に不安を抱いていたようで、自立活動の受講は、ほとんどの方が積極的に希望された。特別支援や通級による指導については、よく知っている方が多かった。自立活動実施に向けての担任や担当者との面談を通して、邇摩高校での自立活動ではこういう力をつけてほしいという具体的な目標を明確にすることができた。
- ・その他の保護者に対しても、学年集会で自立活動について説明し、周知を図った。子供に、ぜひ受けさせたいと希望してくる保護者もあり、高等学校における特別支援教育に期待を寄せる保護者が多いことがわかった。

(その他(地域の理解等))

- ・近隣の中学校から、事業の進捗状況等の問い合わせや生徒や教員による学校見学があった。

(2) 実施上の問題点と今後の課題

- ① 自立活動を受講するために、生徒が実技を伴う実習などを抜ける場合に、影響がないようにする方法。
- ② 自立活動の成果により受講の必要性がなくなった場合、あるいは生徒自身や保護者から必要性がなくなったことの申し出があった場合の対応。
- ③ 自立活動を担当する隣接の特別支援学校の教員の授業時数の調整と、自立活動担当者の増員。
- ④ 生徒自身の障がい認識や自己受容の高まりと指導の充実。
- ⑤ 進路決定する際の、就職応募用紙や調査書への自立活動の単位修得の記載方法等。
- ⑥ 3か年の研究指定期間修了以降の特別の教育課程の在り方、周囲の期待や要望への対応。